

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術 新規対象技術(調査中) 削除技

令和7年11月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理 番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分 類 1 Lv.1	分 類 1 Lv.2	分 類 1 Lv.3	分 類 1 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本 省) ※	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備 考	NETIS HP リンク先(注)
1	「NAV工法」・「NAV-G工法」・「NAV-G工法(UV仕様)」	KT-100023	VG	本技術は、対策後もコンクリート表面の既存ひび割れの進展状況や新たなひび割れ発生等を目視観察できる剥落防止工法である。変状の目視観察による追加対策工の要否を判断でき、透明な耐候性塗料を使用することで紫外線の影響を受ける明かり部へも適用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他		[活用促進] (2017.3.31～)	有		○ (R3年3月)	-		-
2	ボンドKEEPメンテ工法VM-3	SK-110012	VG	本技術は、変性ポリウレア樹脂による柔軟性に富み、広い施工可能温度領域を有するコンクリート片はく落対策工法である。従来は、当該箇所をハツリ撤去後、モルタル等で断面復旧していた。本技術では下地のひび割れや変形に追従性を確保し、通年での施工が可能となった。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進] (2016.8.18～)	有		○ (R4年3月)	不変。		-
3	ハイブリッド形表面被覆材アロンブルコートZ-X、Z-Y工法	CB-120013	VG	従来主流のコンクリート表面保護工は、エポキシ樹脂系材料であるが紫外線劣化により割れ剥がれが多く発生している。本工法は、コスト縮減・工程短縮・品質向上・施工性等に着目し開発した材料(セメント系無機質硬化材を主とし、アクリルゴムを混合)を用いる新工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進] (2016.8.18～)	有		○ (R5年3月)	-		-
4	超薄膜スケルトンはく落防災コーティング	CG-120025	VG	本技術は、透明コーティング材とガラス繊維による塗布接着型シート工法で、コンクリート構造物のはく落対策工事や劣化因子の対策工事に適している。施工後の表面異常が目視により確認できる。塗膜の超薄膜化によってコーティング材の使用量を抑え経済性の向上を果たした。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進] (2019.11.14～)	有		○ (R5年3月)	-		-
5	ワンステップガード工法	KT-120082	VG	本技術は、特殊有機繊維を混合したアクリル樹脂を塗布する方式のコンクリート片はく落防止対策工法で、従来は繊維シート接着工法で対応していた。本技術の活用により、シート接着工程が削減ができるので、工程の短縮、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進] (2019.9.19～)	有		○ (R5年3月)	-		-
6	コンクリート剥落防止塗装 ペイントガードCV	KT-150090	VR	本技術は、アクリルエマルジョンにビニロン繊維及び特殊繊維を配合した塗料を塗布する方式のコンクリート片剥落防止対策工法です。従来は、剥落防止工(アラミドメッシュ)で対応していた。本技術の活用により、接着工程の削減が可能で、施工性や経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150090
7	無機接着剤使用の剥落防止工法	KT-160123	VR	本工法は、無機接着剤と繊維シートを複合使用した剥落防止工法で、従来は、ポリマーモルタル補修工法対応。本技術の活用により施工後の可視化可能で下地コンクリート・繊維シートの挙動監視が容易となり、後々のメンテナンスが容易になると共に安全・経済性向上が図れる	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有			使用機械はハンドミキサー程度		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160123
8	ダイナミックレジン ストロンガード工法	KT-160153	VR	本技術は有機系繊維シートを用いて、橋梁やトンネルなどのコンクリート片のはく落を抑制・防止する工法であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、不陸修正工や中塗り塗布工等が削減され、工程の短縮となるため、経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160153
9	タフガードクリヤー工法	KT-170015	VR	本技術は、コンクリート構造物に保護性能を付与すると共に、透明塗膜により視認性を確保する工法です。従来は、エナメル塗膜(有色)による表面保護工法で対応していた。本技術の活用により、目視での簡便かつ正確な調査ができるため、維持管理性の向上が図れます。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170015
10	ショーボンドハイブリッドシート工法	TH-010017	VG	本技術は、予め工場で製作された特殊ラミネートシートを現場で一層貼り付ける工法で、従来工法の現場積層型の工法に比べて施工工程の削減と品質の向上等を実現しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[設計比較][活用促進]	有	◎	○ (H29年4月)	-		-
11	タフガードQ-R工法	KK-040054	VG	中塗りの強靱な塗膜特性及び塗装システムの速硬性により、従来の補強材工程の省略を可能にし、大幅な工期短縮とそれに伴う工事コスト低減を実現しました。また、無溶剤系の中塗り設計によりコテ塗りを可能とし施工性と環境へ配慮しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[設計比較][活用促進]	有	◎	○ (H29年4月)	-		-
12	高分子系浸透性防水材料 アイゾールEX	CB-030003	VG	撥水効果・コンクリートの表面改質効果を併せ持つ表面被覆材(透湿性を有する水性一液型塗料)が、コンクリートの劣化を抑制する。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[H24準推奨][設計比較][活用促進]	有	○	○ (H29年4月)	-		-
13	SQSシステム工法レジテクトCVスプレー工法	CB-980104	VG	本技術は、超速硬化するポリウレタン系材料を構造物に機械吹付けし、防水膜・保護膜を形成する工法である。本技術により、複雑な形状、埋戻等の土圧等により困難な部位でも信頼性の高い防水効果・表面保護効果及び優れた耐久性が期待できる。	材料	共同溝工	共同溝工(現場打ち)	防水工			有	○	○ (H29年4月)	250代以上		-
14	ONR工法	KT-990214	VG	本技術は コンクリート構造物に対する断面修復および表面被覆工法で、従来は合成樹脂系塗装工法で対応していた。本技術の活用により、品質の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□	○ (H29年4月)	-		-
15	二方向アラミドシート補修・補強工法	CB-000024	VG	二方向アラミドシート工法は、わが国で250件程度の施工実績があり、構造物の耐力の向上を図るとともに疲労による劣化を抑制し、構造物の寿命を延命させることができます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進]	有	□	○ (H29年4月)	-		-
16	ONR工法(はく落防止仕様)	KT-070087	VG	本技術はコンクリート構造物のはく落防止工法である。従来はビニロン繊維とエポキシ樹脂を用いたシート工法で対応していた。本技術の活用により、コンクリートのはく落防止に対する安全性が向上するほか、ひび割れ追従性、中性化および塩害の抑制が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□	○ (H30年4月)	-		-
17	Watercoat(ウォーターコート)	KK-180047	A	本技術は自然界にある約10種類の鉱物を加工した特殊セラミックの性質特徴を活用し水を電気分解し外壁等の表面の凹凸に電気メッキの原理で被膜を作るコーティング技術であり、従来は洗浄を行っていた。本技術の活用により、ライフサイクルコスト削減、品質向上が期待できる	工法	道路維持修繕工	道路清掃工	標識清掃工						コーディング機:40台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180047
18	光触媒塗料「オプティマスホワイトペイント」(遮熱・断熱・空気清浄化)	KK-180049	A	本技術は光触媒の親水性に加えて、有機物分解機能による空気清浄機能を有した汚れにくい内・外装用塗料製品の技術であり、従来はシリコーン樹脂塗料(2級)であった。本技術の活用により品質の向上、地球環境への影響抑制が期待できる。	材料	建築	塗装工事							-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180049
19	ボンドVMネットレス工法	KK-180053	VR	申請技術は繊維シートの不要なコンクリート片はく落防止工法の技術であり、従来はビニロンシートを用いたはく落防止工法を使用していた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工程の短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			不変		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180053
20	トンネルはく落対策工「ハードメッシュ」	KT-190006	VR	本技術は、高剛性の難燃性炭素繊維製グリッドとガラスメッシュを一体化したネット系のトンネルはく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、施工面全体のはく落防止が可能となるため、安全性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190006
21	ポリマーセメント系表面被覆工法「UBレジスト工法」	TH-190006	A	本技術は、コンクリート構造物の表面部から塩化物イオンや炭酸ガス、水、酸素などの侵入を抑制することで、中性化や塩害などの劣化を抑制するポリマーセメント系表面被覆工法である。従来の表面被覆工法に比べ、工期短縮によるコスト低減が可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						受注生産品		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-190006
22	無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法	CG-190009	VE	コンクリートの表面保護・はく落防止として、繊維シート工法が従来は使用されてきたが、本工法は透明度の高い成分高強度ウレタン樹脂で構成された工法で、施工後の劣化状況の見える化、2工程、攪拌作業を不要にすることで、工期短縮、人員削減を可能としました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[★ 活用促進] (R07/03/27～)	有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-190009
23	ダイナミックレジン クリアタフレジン工法	KT-190046	A	本技術は特殊透明樹脂と特殊繊維シートとの組み合わせにより、コンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後下地の劣化状況を目視により確認ができるため、点検及び維持管理が容易となる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190046
24	トンネル小片はく落対策工「FF-TCC工法」	KT-190047	VR	本技術は、高伸度型シートとウレタン樹脂を用いたトンネル小片はく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、はく落確への追従性が高く、透明樹脂により変状確認がし易いため、安全性および施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190047

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術

新規対象技術(調査中)

削除技

令和7年11月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理 番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省) ※	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備 考	NETIS HP リンク先(注)
25	ライフテックス水性はく落対策工法	KT-190117	A	本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対策工法で対応していた。本技術の活用により施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安全性、周辺環境への負荷を低減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	断面修復工						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190117
26	補強型コンクリートはく落防止工法	QS-200020	A	本技術は、表面保護工(コンクリート)に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレタ樹脂を生成し、コンクリート表面に強靱な被膜を形成し、長寿命化を実現する工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						提供可能地域：全国、機械保有台数：4台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200020
27	コンクリート保護シート「KYOZIN」	KT-200107	A	本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久性塗料をシート化したコンクリート保護シートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	製品	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工							—		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200107
28	コンクリートプロテクト工法	KK-200050	A	本技術は、コンクリート表面にポリウレタ樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工程短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工							弊社1台(各地委託先所有機械にて施工)		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-200050
29	ボンドVMクリア工法	KT-210065	VR	本技術は、強靱で耐候性に優れる透明なウレタウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法で、従来はビニロンネットと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			不変		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210065
30	下地視認可能型省工程剥落防止工法 ダイナミックレジックリアタフレジックウィック	KT-210087	A	本技術は特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状況を目視確認できるため、点検及び維持管理が容易となり、また工程も短縮されているため、経済性も向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						—		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210087
31	ポリウレタ樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」	QS-210065	A	本技術は表面保護工法に関する技術である。タフネスコートをコンクリート構造物表面に吹き付けることにより、剥落防止、貯水性確保、耐久性及び耐衝撃性向上といった機能をもたらすことができる。本技術の活用により、維持管理コストの低減並びに長寿命化を図ることができる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210065
32	コンクリート構造物補修材料EXGリベアシリーズ	KT-220034	A	本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は表面被覆工(コンクリート保護塗装CC-B)で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤面での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工程が短縮する。	材料	コンクリート工	その他							10トン以上/月産		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220034
33	コンクリート打放し用の仕上材材「シェルトクリヤ」	KT-220060	A	本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリヤ塗料で、従来は、シラン系表面含浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中性化および塩分の浸透を抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						要相談		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220060
34	シリコーン樹脂を用いた「バフパーコート」工法	KT-220094	A	本技術は、鋼橋やコンクリート構造物の防食および表面保護を行うシリコーン樹脂のコーティング工法で、従来は、塗着塗装(0-5系(重防食塗装))で対応していた。本技術の活用により、3層の塗膜層でも40年以上の長期耐久性が確保できるため、品質および経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						特に問題なし		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220094
35	コンクリート用有機系表面保護材「U-レジストリアコートノガード」	CG-220023	A	本技術は、エポキシ樹脂と強靱なウレタン樹脂を主材料に用い、コンクリートへの劣化因子の侵入防止と、はく落防止の両方が可能となる表面保護技術である。塗膜が透明でメッシュも使用しないため、施工後の構造物の点検が容易で、工期短縮・施工費の削減も可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-220023
36	ポリウレタ樹脂による剥落防止工法	KK-230027	A	本技術は、コンクリート構造物に高強度のポリウレタ樹脂を吹付けて剥落を防止する工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により樹脂の塗り重ねや連続シートの含浸接着の工程が省略でき、工程短縮及び経済性・施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230027
37	省工程剥落防止対策「STUクリアシート-S工法」	KT-230146	A	本技術は連続繊維を樹脂でラミネートしたほぼ透明のシート1層を消防法上非危険物となる接着剤で貼付けるだけの剥落防止工法である。従来は連続繊維シート含浸工法で対応していた。本技術の活用により、コスト削減と工期の短縮、火災事故への安全性が向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						北海道を除く全国、生産地(岐阜県・大阪府)		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230146
38	コンクリート構造物簡易補修材「タフガードリベアスプレー」	KT-230168	A	本技術はコンクリート剥離部や鉄筋露出部に塗装し簡易的な剥落防止対策や防食効果がある1液エアゾールスプレー缶タイプ補修材で、従来は高濃度亜鉛未錆止めスプレーで行っていた。本技術の活用により本格補修までの間、躯体再劣化・剥落を予防できるため安全性が向上する。	製品	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230168
39	透明なはく落防止対策「ニュークリアクロス工法」	KT-230176	A	本技術は、コンクリートはく落防止対策工について、含浸により透明になるビニロン繊維シートを用いた技術である。従来は有色のビニロン繊維シートで行っていた。本技術の活用により構造物の表面性状を目視で観察することが可能なため、施工性(維持管理時)の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230176
40	コンクリート構造物の表面保護材「セラマックスFT70(塗るゴム)」	QS-240009	A	本技術は、橋梁補修工(表面被覆工)に関する技術である。従来は3層塗布が必要であったが、1層塗布による表面被覆工が可能であるため、省力化により施工性の向上および工程の短縮が可能である。また、塗料に有機溶剤の含有量が少ないため、周辺環境への影響が軽減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-240009
41	ネットレスはく落対策「ワンバインドスプレー工法」	KK-240043	A	本技術は、コンクリート構造物に薄層でも強靱な塗膜を形成するポリウレタウレタン樹脂を吹付けてはく落を防止する工法である。薄層塗布で所定の押し抜き性能を確保し、有害ガスの発生量が抑えられるためトンネル坑内でも使用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240043
42	水性樹脂を用いた省工程型のはく落防止工法	KK-240050	A	本技術は、コンクリート剥落防止工法であり、従来は、多工程で、溶剤型樹脂塗料を使用する繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、省工程施工による工程短縮の実現と、水性樹脂塗料を使用することによる、周辺、作業環境への影響の低減、安全性の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240050
43	ONR工法 はく落防止仕様V2	KK-240055	A	本技術は、ポリエーテルアクリル系塗装材と高弾性ビニロン繊維シートを採用したはく落防止工法である。従来のエポキシ樹脂含浸材と炭素繊維シートを用いた連続繊維シート工法と比べて、本技術の活用により、工期短縮による省人化や材料の変更によりコスト削減が可能となる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240055
44	BMシート工法	KK-240058	A	コンクリート構造物におけるバサルトメッシュおよび高分子系浸透性防水材を用いた剥落防止工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、工期短縮とコストダウン、および安全性・施工性の向上と周辺環境への影響抑制が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240058
45	表面被覆工法「シリコンガードシステム」	KK-240075	A	本技術は、水系材料を用いたコンクリート構造物の表面被覆工法であり、従来はCC-B塗装で対応していた。本技術の活用により、すべて水系材料で構成し塗布層数も比較的に少ないため経済性・安全性・施工性・品質が向上し、工程短縮と環境への影響抑制に優れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240075
46	補強布を用いないFRP防食工法	KK-240076	A	本技術はローラー・刷毛・コテ等で塗装することで、防食被膜を形成するコンクリート構造物等の防食被覆工法で、従来技術で必要とされたガラスマットの裁断、割付、含浸脱泡工程を省略することが出来る。本技術の活用により、作業性の向上、コストの低減が期待できる。	工法	上下水道工	維持管理							／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240076
47	コンクリート補強用2方向炭素繊維シート「FFシートCR240」	KK-240092	A	本技術は、内面補強工に用いる1層貼りが可能な2方向炭素繊維シートで、従来は1方向炭素繊維シートの2層貼りで対応していた。本技術の活用により、2層貼りから1層貼りに縮減でき、省力化となるため、経済性、施工性、品質の向上、工程の短縮が図られる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240092
48	冬季施工用トンネル補強用炭素繊維「ガイナCFシート工法-H」	KK-240112	A	本工法は、炭素繊維シートをコンクリート面に貼付し、2液主剤型アクリル樹脂を塗布してFRP化させて補強する工法で、従来はエポキシ樹脂を使用していた。本技術の活用により、5℃未満でも樹脂が硬化するので、冬季施工の施工性向上と作業環境の改善が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240112

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術

新規対象技術(調査中)

削除技

令和7年11月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上 (注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理 番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分 類 1 Lv.1	分 類 1 Lv.2	分 類 1 Lv.3	分 類 1 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省) ※	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備 考	NETIS HP リンク先(注)
49	コンクリート用化粧材 NURUCON(ヌルコン)	KK-250009	A	本技術は水性で一液型のコンクリート用の付着力が大きい速乾性塗料で、従来はCC-B塗装を行っていた。本技術の活用により、工程短縮と経済性・品質・施工性が向上し、環境負荷が低減する。	工法	道路 維持修 繕工	橋梁補 修補強 工	表面保 護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-250009